

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S500005	非常勤 (担当：茅野)	体操・器械運動	体づくり運動（体ほぐしの運動・体力を高める運動）及び器械運動（マット・跳び箱・鉄棒）の技能と指導法について学ぶ。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の「体づくり運動」及び「器械運動」指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 「体づくり運動」及び「器械運動」指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 「体づくり運動」及び「器械運動」指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 「体づくり運動」及び「器械運動」領域の授業設計をすることができる。 	3	2	2	1	1
S501001	加藤謙一	陸上競技	中学校および高等学校における保健体育の実技「陸上競技」の授業について理論と実践を通してその指導方法を理解する。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための科目であり、体育実技の専門的指導力を高める科目としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的運動種目（短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び）の指導法を習得する。 陸上競技における安全管理及び安全指導を習得する。 	3	2	2		
S502008	加藤謙一・小宮秀明・黒後洋・平野智之・久保元芳・非常勤講師	水泳	中学校および高等学校における保健体育の実技「水泳」の授業について理論と実践を通してその指導方法を理解する。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための科目であり、体育実技の専門的指導力を高める科目としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的水泳技術（クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライ）及びその指導法を習得する。 水中における安全技術及び安全指導を習得する。 臨海実習を通して自然理解を深め、自然保護の知識を習得し、さらに集団生活の中で規律ある行動、協力、リーダーシップ及びフアロアーシップの習得を目指す。 	3	2	2		
S503004	茅野 理子	ダンスA	運動、イメージ、構成課題などを手がかりとした課題学習を中心とし、踊る・創る・観るというダンス技能の基礎習得をめざす。それとともに、小・中学校体育を中心としたその指導法を実習する。あわせてフォークダンス、レクリエーションダンスなども実習する。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目であり、保健体育科のダンス領域指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ダンス領域指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ダンス領域指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ダンス領域の授業設計をすることができる。 	2	2	3	1	2
S504000	松村司朗	武道A	伝統的な剣道（武道）稽古の意義や方法を理解し、実践してみることで、スポーツ・学校体育における運動指導一般のあり方を問い直してみる。生涯体育のあり方として、勝敗を競う、運動の楽しさ、仲間との連帯感、健康の保持・増進などについて、「生きる力・自己教育力・新しい教育観」と、剣道の文化性として伝承されてきた「伝統的な稽古観」との違いを比較検討する。そのなかで、「開かれた創造性を身につける」に対する「閉ざされた創造性を身につける」の意義を理解し、両者の実践ができるようにする。	免許教科「保健体育」を取得する場合の「教科に関する専門教育科目」として、武道、特に剣道指導に必要な知識と技能を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 剣道（武道）の礼法・作法を理解・実践し、指導できるようになる。 「剣道の基本技」を演武し、指導できるようになる。 応用技への展開ができるようになる。 	3	3	2	2	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3: DP達成のために特に重要な目標 2: DP達成のために重要な目標 1: DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S505007	非常勤 (担当: 茅野)	サッカー	サッカーの知識(歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等)を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の球技領域(サッカー)指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	・球技領域(サッカー)指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・球技領域(サッカー)指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・球技領域(サッカー)領域の授業設計をすることができる。	3	2	2	1	1
S506003	非常勤 (担当: 茅野)	バスケットボール	バスケットボールの知識(歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等)を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。常に指導者の立場を想定して実践を行う。	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目として、保健体育科の球技領域(バスケットボール)指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	・球技領域(バスケットボール)指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・球技領域(バスケットボール)指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・球技領域(バスケットボール)領域の授業設計をすることができる。	3	2	2	1	1
S507000	黒後 洋	バレーボール	個人・集団的基礎技能の習熟とともに、初心者にバレーボールを楽しませゲームを成立させるために「どんな条件を整え、どんなルールを独自に創造すれば良いのか」という点について、実技を通して習得する。	学校体育におけるバレーボールの授業に於いてゲームの成立に向けた実践力・指導力を深める。	・基本的な個人・集団実技能力の習得。 ・6人制の基本的なゲームルール及び審判法の習得。 ・実技レベルに応じた教材の選択とルールの適用。	3	3	3	2	2
S512003	加藤謙一	運動学	運動学習論および力学、生理学、解剖学などの基礎知識をもとに体育の学習指導やスポーツのコーチングの方法について習得する。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、運動学習論やバイオメカニクスなどの専門理論を通して実技の指導力を高める科目としての意義を持つ。	・運動学習論の理解およびスポーツバイオメカニクスについて理解を深める。 ・理論的な観点から運動指導の具体的方法が理解できる。	3	2	2		
S513000	小宮秀明	生理学	生理学の基礎から運動生理学の応用について全15回で行うものである。まず、身体の神経、呼吸、血液、循環、内分泌などの基本となる生理機能について概説する。このことを踏まえ中学・高等学校の保健体育の授業で必要となる課題について、身体活動の安全性やパフォーマンス向上等を含め講義する。	中学校・高等学校の「体育、保健体育」免許を取得するための必修科目であり、これまでの教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ講義の中でその解説を行う。	本講義では授業計画に示すように身体の機能的メカニズムを十分に理解することが必要となる。さらに運動場面においてどの様に身体の諸機能に変化するかを明らかにし、生理学から運動生理学へ系統的に説明を行い、各臓器や器官と運動を有機的に結びつけることができるようになる。	3	3	2	2	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S514006	久保元芳	衛生学及び公衆衛生学	衛生学は人々の疾病の予防、健康の保持増進のための原理について、公衆衛生学は集団としての人間の健康の保持増進を図るために環境や社会のあり方などについて講義する。具体的には、環境、疾病構造、生活習慣、ライフステージ、社会制度等と人々の健康との関連について解説し、我々が健康な社会の創造に向けて何をしなければならぬのかを考える契機とする。なお、衛生学公衆衛生学の範囲は広範にわたるので、日常生活とできるだけ関連のある内容について扱う。	中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、学校等における集団の健康を保持増進していくための基礎的な知識と技能を養成する上で意義を持つ。	・健康の概念、環境衛生、感染症、生活習慣病、精神保健、母子保健、疫学等の衛生・公衆衛生に関わる重要かつ基本的知識を習得し、説明できるようになる。 ・集団としての人間の健康の保持増進を図るために自分自身ができることを、本授業で学習した内容を基に思考し、提案を示すことができるようになる。	3	1		2	1
S515002	久保元芳	学校保健Ⅰ→学校保健	学校現場において子どもの健康や安全を守っていくための「保健管理」、また、健康や安全の保持増進に関わる子ども自身の能力を育てていくための「保健教育」についての基礎的な内容について講義する。その際、受講生がこれまでの学校生活で体験したことや感じたことを取り上げながら進める。	中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、学校現場において行われる様々な学校保健活動を養護教諭、栄養教諭、学校医、保護者等と連携しながら企画・運営していけるための知識と技能を養成する上で意義を持つ。	・学齢期の子どもにおける発育発達特徴や起こりやすい健康問題について理解できている。 ・学校において子どもの健康や安全を保障するための主要なシステムや活動、担当者の役割等について理解できている。 ・健康や安全に関わる子ども自身の実践力を育成するためのアプローチのあり方について、思考することができる。	3	2		1	2
S508006	黒後 洋	体育原理	教育概念に基づく体育概念を理解し、従来の学校体育・社会体育論を批判的に検討することを通して、体育論・スポーツ論に関する基礎的理解力を習得する。	学校教育における体育・スポーツの諸問題を理解すると共に、教師としての役割等について理解を深める。	・体育原理に関する基礎理論の習得。 ・体育概念に関する基礎的アプローチ法の習得。 ・スポーツ概念に関する基礎的アプローチ法の習得。 ・体育・スポーツに関する諸問題の理解。	3	3	2	3	2
S509002	海野 孝	体育・スポーツ心理学	運動・スポーツと心との関係を以下の3つの観点から取り上げ、指導のあり方について講義する。 1) 運動・スポーツが心にどのような影響を及ぼすか 2) 運動・スポーツを学習するときに、どのように心が保たれるか 3) 運動・スポーツを行うときにどのように心が関与するか	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための選択科目であり、学習者の立場に立った指導を行うために必要な基礎的な知識と指導力を養成する。	・運動学習とパフォーマンスに関する心理学的研究の成果について理解する。 ・体育・スポーツの場における効果的な指導法について工夫する力を養成する。	3	2	2	1	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S509509	松村司朗	体育・スポーツ経営管理学	スポーツという行動がどのような仕組みのもとで成り立っているのか、その経営学的背景を知るとともに、体育・スポーツ指導者に必要な経営管理学上の技術・知識・考え方を探る。あわせて、受講者自身の運動学習の体験やその考え方を発表し、討議する力も習得し、体育・スポーツの経営者・管理者・指導者(教員)養成に資する。	免許教科「保健体育」を取得する場合の「教科に関する専門教育科目」として、体育・スポーツ指導者に必要な経営管理学上の知識と技能を育成する。	・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	3	3	2	2	2
S510000	非常勤 (担当：茅野)	体育・スポーツ社会学	現代社会においてスポーツは、政治・経済・教育などさまざまな分野で大きな影響力をもつて展開されている。授業では、スポーツとその他の文化との関わりについて具体的な事例を挙げながら学ぶ。	本授業は教育学部教員養成課程保健体育専攻の科目であり、課程共通科目中学校科目として配置されている。	スポーツの高度化と大衆化という社会現象を踏まえ、スポーツと社会・文化との関わりに焦点をあて、その背景にある社会性と内在する問題の存在について理解し、検討することを目標とする。	3	3	1	2	
S516009	平野智之	中等保健体育科教育法(体育1)	中学校・高等学校の体育授業実践に向けた基礎理論(目標論・教科内容論・教材づくり論・学習評価論等)について講義する。また、講義内容を踏まえて授業設計を行う。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、保健体育授業の実践力を高める科目としての意義を持つ。	・中学校の体育授業実践に向けた基礎理論を理解する。 ・基礎理論を踏まえた授業設計ができる。	3	3	3	3	2
S517005	久保元芳	中等保健体育科教育法(保健1)	保健体育教師が保健の授業を担当する意義、中学校および高等学校の保健の授業で教えるべき内容とその授業づくりの方法等について、具体的なデータ、教材、授業実践例等を用いた講義に加え、学生によるグループワークを適宜取り入れながら進める。	中学校・高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目であり、体育・スポーツ・健康に関わる各分野の専門性を有する学生の利点を活かした保健の授業づくりのあり方について模索する。	・保健の授業を担当する教師に必要な授業観を形成できている。 ・中学校および高等学校の学習指導要領に示されている保健学習の目標、内容について理解できている。 ・将来、保健の授業を担当する上で必要とされる教材研究の方法や指導方法について理解できている。	3	2	2		2
S518001	加藤謙一・平野智之	中等保健体育科教育法(体育2)	中学校および高等学校における保健体育の授業に必要な知識や技能とそれらにかかわる指導方法について学習する。	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、教育実習などの研究授業を省察し、保健体育の指導力を高める科目としての意義を持つ。	・体育や保健の授業を客観的に観察し、良い点や問題点を指摘することができる。 ・また、そうした指摘をもとに授業を改善するための具体的な方法を提案できる。	3	3	2	3	1
S519008	久保元芳	中等保健体育科教育法(保健2)	青少年の現代的な健康課題に対応する実践力の育成を目指した保健授業のあり方について講義する。また、保健の授業における「指導と評価の一体化」の考え方について解説した上で、保健授業の指導案づくりや教材づくり、模擬授業を実践し、相互検討を行う。	中学校教員免許一種「保健体育」取得に必修の科目である。「中等保健体育科教育法(保健1)」において学習した保健の授業づくりに関わる基本的な内容を踏まえ、実践的な指導力の育成を目指した内容となる。	・学齢期の子どもにおける現代的健康課題の特徴と保健教育における対応のあり方について理解できている。 ・保健の授業における評価の考え方や方法について理解できている。 ・保健の授業の指導案づくりや教材づくりを適切に行うことができる。 ・教育実習等で保健の授業を担当する上での実践的な指導力を身につけている。	2	2	3	1	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3: DP達成のために特に重要な目標 2: DP達成のために重要な目標 1: DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S520003	小宮秀明	解剖学	中学校や高等学校の保健体育の教科書に記載されている身体の骨、筋肉、神経系、循環器系の名称を人体標本を用いて説明を行う。特に運動器については具体的な運動と関連させ説明を行う。	中学校や高等学校の保健体育の授業で学習する身体の基礎的な名称と役割について学習する。また、運動生理学、運動発達論や運動学などの応用できる身体の各部位の詳細な名称とその役割を理解する。また、各種の実技科目で使用する身体各部位を系統的に理解する。	解剖学のなかでも骨格系、筋系、脈管系、神経系の構造について理解し基礎知識を修得することにある。とくに運動器官である骨格系、筋系については、将来、中学校・高等学校の教師にとっては非常に重要になってくるので、骨標本、筋標本、関節標本などの名称とその役割が理解できる。	3	2	2	2	2
S522009	海野 孝	体育・スポーツ統計	スポーツテストのデータ処理を始め、専門書の講読、卒業研究の取り組み等においても必要とされる統計的方法についての知識について、数式よりも意味や使い方を重視して講義する。	保健体育専攻専門科目のなかの選択科目であり、専門書講読、及び卒業研究遂行の際に必要な基礎的な知識を修得する。	・スポーツテスト、実験、調査等で得たデータの処理方法を修得する。 ・自然科学の研究に不可欠な道具である統計的方法の本質、仮説検定の仕組みなどを理解する。	3	2	1	2	1
S523005	加藤謙一	運動発達論	誕生から老年にいたるヒトの運動発達の特徴を展望し、スポーツ運動系の運動学習や運動指導について学ぶ。	体育の授業やスポーツ指導の前提条件となる学習者の発達、すなわち就学前の子どもから高校生、さらに成人の運動発達の特徴を理解する科目として意義を持つ。	・就学前の子どもから老年に至る各年代における具体的な運動指導の計画を作成することができる。	3	2	2		
S524001	小宮秀明	運動生理学	生理学で学習した内容を基礎として、学校体育・スポーツ活動の場において実際に活用できる内容について授業を展開する。	本授業科目では、これまでの中学校や高等学校の保健体育の教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ、その対策を含め講義を行う。小・中・高等学校の体育、保健体育の指導要領に記載されている事象を念頭に置きながら授業を展開する。	運動生理学の立場から運動中及び運動後の安全管理と障害の予防および運動パフォーマンスの向上について基礎的知識を理解ができる。	3	3	2	2	2
S525008	加藤謙一	トレーニング科学	スポーツの競技力向上や健康体力づくりを効果的に実践するためのコーチングや指導に関する科学的原理を理解することである。	各種スポーツを行う上で、前提条件となる科学的原理や実践方法を理解する科目として意義を持つ。	・スポーツの競技力向上や健康体力づくりを効果的に実践するためのコーチングや指導に関する科学的原理を踏まえて、トレーニング計画を作成することができる。	3	2	2		
S526004	非常勤 (担当: 茅野)	ヘルスプロモーション	本講義では主に国民の健康づくり対策のアプローチについて学ぶ。	保健体育専攻専門科目における選択科目であり、保健体育や食育など健康教育の知識を習得することに対応した、教育を学ぶ上で大切な項目である。	・現代人の生活習慣と健康状態や健康日本21について知る。 ・栄養・運動・休養の3本柱からの健康づくりを実践できる。 ・生活習慣病を予防するための健康教育ができるようになる。	3	2	2	1	

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S527000	松村 司朗	武道学概論	武道学の骨組みを概説する。特に、武道領域で使用される特殊な言語、たとえば「捨て身」や「残心」などの武道言語に着目し、東洋的な心身論として武道文化論を展開する。また、現代体育学における心身論との比較をおおして、武道実践の「あり様」と、健康および運動学習・運動指導への「あらたなあり様」についても示唆し、指導者(教員)養成として受講生の学習力と指導力の養成に資する。	「保健体育専攻専門科目」として武道学を概説し、体育・スポーツ指導者に必要な「武道的(東洋的)心身論・実践論」の知識を修得する。	・ 武道学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・ 武道学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	3	3	2	2	2
S528007	茅野 理子	舞踊学概論	様々な舞踊文化について学び、それらが生み出された背景について考察するとともに、ダンス指導上必要な知識(舞踊史、創作法等)について学習する。	本講義は、保健体育専攻専門科目であり、「舞踊学」としての学問体系を深く学び、それぞれの教育現場におけるダンス指導上の理論的背景を構築することを目標とする。	様々な場面での身体表現について探究することでコミュニケーションにおけるその意義を認識すること、保健体育科の「ダンス」領域の指導理論とその実際について理解を深めることを到達目標とする。	3	2	1	2	1
S752004	平野智之 他	野外運動演習	組織キャンプの計画方法及び運営方法の指導を行う。また、組織キャンプの意義や教育効果について講義する。	中学校・高等学校の保健体育授業(自然体験活動)の実践力を高める科目としての意義を持つ。	・ 組織キャンプの意義を理解する。 ・ 組織キャンプのプログラムを実践できる。	3	2	3	3	2
S529003	非常勤 (担当: 茅野)	救急法実習→救急法演習	日常生活における事故の防止、手当ての基本、心配蘇生法、AEDの使用法、搬送方、止血の方法などの知識や技術、また、乳幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看護の仕方などの知識や技術を学ぶ。	本講義は、保健体育専攻専門科目であり、救急法の知識と方法を深く学び、実践することができるようにする。	・ 救急法における基本的な知識を習得することができる。 ・ 救急法に必要な基礎的技術を体得することができる。	3	2	2	1	1
S530001	小宮秀明	体力測定実習	定期健康診断時の形態計測、聴力や視力を実際に測定する。現在の児童生徒で問題となっている体格の肥満や痩せについて現状を解説する。	学校保健安全法で定められた体格測定及び、文部科学省が毎年実施している体力測定の意義と測定法を理解する。	学校現場において毎年実施される体格測定の基礎と実践力を身につけるため、実習形式による身体計測及び体力測定の測定方法と基礎的な知識を学習する。定期健康診断や体力測定の実施・運営を行い、学校教育においてもその指導力が発揮できるようにする。	3	2	2	2	2
S531008	海野 孝	テニスA	運動好きと結びつく体育授業として、「快適な運動」「技能の伸長」「明るい交友」「新しい発見」の4つの条件があげられている(高田, 1976)。本授業ではテニスを実技教材として、初心者がゲームができるようになるまでの学習過程を取り上げ、実践的指導力の育成を図る。	保健体育専攻専門科目の選択科目であり、基礎的な実技能力及び指導力を養成する。	・ テニスの特性、技術構造、ルール、マナー、戦術、練習方法等を理解する。 ・ テニスの基礎的技術と戦術を修得する。 ・ 初心者指導における留意点を理解するとともに、実践的指導力を高める。	3	1	2	2	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (保健体育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるのと同時に、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S532004	非常勤 (担当：松村)	武道B	柔道(武道)の歴史・特性を理解し、正しい基本動作や技能を身に付ける。安全な身の処し方を理解した後に、柔道の技として、投げ技、及び固め技の原理を一つ一つ学ぶ。さらに練習や試合を通すことにより、対人競技としての技能や能力を高めていく。また、柔道試合審判規定などについて理解を深めていく。	「保健体育専攻専門科目」として武道、特に柔道指導に必要な知識と技能を育成する。	・柔道(武道)の特性を理解する。 ・基本動作や個々の技能及び対人技能、試合などを通して、生涯スポーツに役立つ能力を修得する。	3	3	2	2	2
S533000	平野智之 他	スキーⅠ→スキー	基礎的なスキー技術の実技指導を行う。また、スキー技術・スキー指導法等の理論を講義する。	中学校・高等学校の保健体育授業(自然体験活動)の実践力を高める科目としての意義を持つ。	・スキーの基礎的な理論を理解する。 ・スキーの基礎的な技能を習得する。	3	2	3	3	2
S535003	海野 孝 保健体育全教員	スポーツ健康科学演習A→保健体育研究セミナーⅠ	本演習は卒業論文を作成するために必要な保健体育、スポーツおよび健康科学に関する分野の動向や課題について自ら問題意識を持ち、これらの課題を解決していくために必要となる調査方法、方法論、それに関連する文献検索法や統計学的手法を学習する。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。	3	3	2	3	2
S536000	海野 孝 保健体育全教員	スポーツ健康科学演習B→保健体育研究セミナーⅡ	前期に学習した「保健体育研究セミナーⅠ」を継続しつつ、卒業研究の課題設定に向けて、各教員から指導・助言を受ける。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。 ・自ら問題意識を持って課題を設定する能力と態度を修得し、卒業研究で取り組む課題を深める。	3	3	2	3	2
S537006	茅野 理子 保健体育全教員	卒業論文	卒業研究の課題設定と遂行に向けて、各教員から指導・助言を受ける。	保健体育専攻専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する専門的・応用的な知識と技能を養成する。	・自ら問題意識を持って、教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、研究課題とする。 ・設定した研究課題について、従来の研究の動向や課題について分析し、その独自性を明確にする。 ・研究方法等に関して修得した基礎的な知識と技能を応用し、卒業研究の課題に取り組む。	3	3	2	3	2